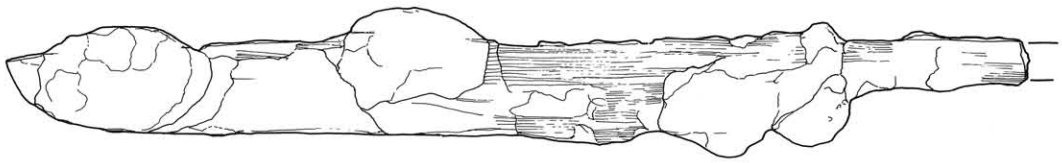
稲敷市埋蔵文化財調査報告書第３集

茨城県稲敷市

青宿遺跡

発掘調査報告書



平成20年3月

稲敷市教育委員会
有限会社イシイリース
有限会社　日考研茨城

稲敷市埋蔵文化財調査報告書第３集

茨城県稲敷市

青　宿　遺　跡

発掘調査報告書

平成20年3月

稲敷市教育委員会
有限会社イシイリース
有限会社　日考研茨城

例　言

1．本書は、有限会社イシイリース　代表取締役　石井晴美の計画した自動車解体作業場建設に伴う、茨城県稲敷市高田字青宿673-1,673-2所在の青宿（あおやど）遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、有限会社イシイリース　代表取締役　石井晴美の委託を受けて、稲敷市教育委員会の指導のもと、有限会社日考研茨城が行った。

3．発掘調査は、平成19年３月14日～４月６日まで行い、同年11月30日から12月26日まで整理作業を行った。

4．発掘調査組織は下記の通りである。

調査担当者　　小川　和博[(有)日考研茨城]　現地・整理
調査員　　大渕　淳志[(有)日考研茨城]　現地
調査員　　大渕　由紀子[(有)日考研茨城]　現地・整理
調査員　　大野　美佳[(有)日考研茨城]　現地・整理
現地調査作業員　小野豊、露久保三郎、谷中昌、佐賀実、友部政夫、矢口勇、吉田みち、矢口克、下山豊二
整理調査作業員　大渕由紀子・大野美佳[以上(有)日考研茨城]
事務局　　（有）日考研茨城
調査指導　　人見暁朗、鈴木美治、稲敷市教育委員会

5．本書の編集執筆は、小川和博が行った。

6．本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

7．遺構の略称に使用した記号は以下の通りである。

古墳：ＳＭ　　溝：ＳＤ　　土坑：ＳＫ　　撹乱：Ｋ

8．本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修2000年版）に従った。

9．遺構および遺物の写真撮影は小川和博が行った。

10．記録および出土遺物は、稲敷市教育委員会が保管している。

11．発掘調査および報告書の作成に当たり、以下の方々のご教示・ご高配を賜った。記して、深く謝意を表す次第です。（敬称略・順不同）

茨城県教育委員会、（財）茨城県教育財団、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場

目　次

例　言

第Ⅰ章　序章 …… 1

第１節　調査に至る経緯 …… 1

第２節　調査経過とその概要 …… 1

第３節　遺跡の位置と周辺遺跡 …… 2

第４節　周辺の遺跡 …… 2

第Ⅱ章　検出された遺構と遺物 …… 7

第１節　概要 …… 7

第２節　古墳 …… 7

第１項　１号墳（円墳） …… 7

第２項　２号墳（方墳） …… 12

第３節　溝 …… 13

第４節　土坑 …… 14

第１項　遺構 …… 14

第２項　出土遺物 …… 14

第Ⅲ章　まとめ …… 17

挿図目次

第１図　発掘区および青宿古墳群１号墳位置図 …… 3
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 4
第３図　青宿古墳群１号墳近景 …… 5
第４図　遺構配置図 …… 8
第５図　１号墳（ＳＭ01）周溝土層断面実測図 …… 9
第６図　１号墳（ＳＭ01）第１・２周溝内埋葬施設 …… 10
第７図　１号墳（ＳＭ01）出土遺物 …… 11
第８図　２号墳（ＳＭ02）周溝土層断面実測図 …… 12
第９図　溝（ＳＤ01・02）実測図 …… 13
第10図　土坑（ＳＫ01～07）実測図 …… 15
第11図　青宿遺跡出土縄文土器 …… 16

写真図版目次

PL.１　遺跡遠景，遺跡調査前近景，調査区全景
PL.２　１号墳（SM01）全景（南東から），第１周溝内埋葬施設、第１周溝内埋葬施断面、第１周溝内埋葬施設出土刀子
PL.３　第２周溝内埋葬施設、第２周溝内埋葬施設断面、２号墳（ＳＭ02）全景
PL.４　溝（ＳＤ01）、溝（ＳＤ02）、土坑（ＳＫ01）、土坑（ＳＫ02）、土坑（ＳＫ03）、土坑（ＳＫ04）
PL.５　土坑（ＳＫ05）、土坑（ＳＫ06）、土坑（ＳＫ07）、１号墳第１埋葬施設出土刀子、１号墳周溝内出土土師器、調査区内出土縄文土器

表目次

Tab.１　青宿遺跡と周辺遺跡一覧 …… 5
Tab.２　稲敷台地東端の古墳一覧表 …… 18

第Ⅰ章　序　　章

第１節　調査に至る経緯

平成18年12月14日付け、有限会社イシイリース(代表取締役　石井晴美)より稲敷市教育委員会に対して埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについての照会がなされた。稲敷市高田字青宿673－２ほか、975.90㎡を自動車解体作業場新築事業の予定地としているという内容であった。

事業予定地は周知の遺跡である青宿遺跡が所在していることから、稲敷市教育委員会は遺跡の状況を確認するため、同年12月26日に現地踏査を実施した。事業予定地は無許可で既に表土が削平されローム面が露呈状態にあり、遺構プランの点在が確認された。この結果を基に平成19年１月19日、稲敷市教育委員会は試掘調査を実施した。既に表土が除去されているため、事業予定地の全域について遺構の所在を確認することができ、溝状遺構と土坑群を確認し、これに伴い土師器片や縄文土器片などを検出した。

この試掘調査の結果を基に、今後の対応について茨城県教育委員会文化課の指導・助言を受け、平成19年１月５日付けで、稲敷市教育委員会は事業主に対し、試掘調査の結果に基づき今後の埋蔵文化財の取扱いについて回答した。その後、稲敷市教育委員会は事業主と協議を重ね、事業予定地は既にローム面が露出しており遺構保護層の確保が難しい点と、今後の事業計画変更が難しい点を確認した。このことから、遺跡の現状保存が極めて困難であり、発掘調査を実施して遺跡の記録保存を図ることで協議がまとまった。

同年２月13日、稲敷市教育委員会は有限会社イシイリースと有限会社日考研茨城(代表取締役　小川和博)との間で発掘調査実施に関する三者協定書を締結し、同年３月14日から４月６日までの期間に現地調査作業、その後報告書刊行等の内容で発掘調査を実施するに至った。

(稲敷市教育委員会)

第２節　調査経過とその概要

青宿遺跡の本調査は、平成19年3月14日から4月６日まで実施した。市教育委員会により先に実施した確認調査の結果に基づき、開発予定区域のほぼ全面975.90㎡を調査することとなった。調査区の地形は東側に緩傾斜する台地地形で南北に長い台地縁辺部にあたる。

まず重機による表土除去から開始し、遺構確認のための精査を人力により行う。確認調査で把握されていた黒色土の落ち込み部を中心に丁寧な精査を繰り返し、その結果、調査区北側より溝状の黒色土落ち込みを確認する。東側が不明瞭であるが円形を呈する溝であることがわかり、円墳の周溝もしくは円形周溝状遺構であることが判明する。また南側でもやはり方形を呈した溝を検出する。その形状からやはり方墳もしくは方形周溝状遺構であることが確認された。調査の結果、それぞれは古墳と判断され、円墳を１号墳(ＳＭ01)、方墳を２号墳(ＳＭ02)と命名する。また１号墳周溝調査で南側と北側の２ヶ所で周溝内土坑が検出され、南側の土坑内から刀子が出土し、埋葬施設であることが判明した。また北側の土坑では副葬品の出土はないものの、やはり埋葬施設と推定される。そこで南側を第１周構内埋葬施設、北側を第２周溝内埋葬施設とする。なお、１号墳周辺あるいは周溝内側には土坑が集中して検出された。遺物の出土はないが、少なくとも古墳の封土下に存在すること、周辺から縄文土器の出土があることから、古墳築造以前のものと判断した。また調査区南端と北側には台地傾斜面に沿って走る溝が検出されたが、構築時期については、覆土の出土遺物がなく時期を確定する資料に欠けている。

調査は１号墳(ＳＭ01)から開始した。中央部を基点として十字のセクションベルトを設定し、すでに削平されている封土を確認するものの旧表土の残存はみられず、周溝内覆土のみを除去する。さらに周溝内土坑の調査を継続し、写真撮影後実測作業を行う。また２号墳(ＳＭ02)も同様封土は削平され地山であるローム面を精査し、周溝内の覆土を除去する。周溝内には遺構はなく、しかも遺物も検出されなかった。最後に溝と土坑調査に取り掛かる。土層断面の観察のためにセクションベルトを設定し、壁面および底面の検出を実施した。覆土内からは遺物の出土はないものの、覆土の状況や古墳封土下の検出から縄文時代に属するものと判断し、それぞれ完掘して３月31日調査を終了、さらに４月６日茨城県教育庁文化課による発掘調査終了確認をもって、現場調査のすべてを完了する。

(小川和博)

第３節　遺跡の位置（第１・２・３図）

青宿遺跡は、稲敷市のほぼ中央、旧江戸崎町の南東端で、高田字青宿673－1、２に所在し、稲敷市役所江戸崎庁舎の東2.3kmの市郊外、北緯35°56′51″、東経140°0′8″に位置する。ここは北西側が霞ケ浦に流れる１級河川小野川の河口にあたり、南側には利根川といった大河川に囲まれるように形成された稲敷台地の南東端に形成されている。遺跡は霞ケ浦に流れ込む小野川河口右岸にあたるが、ここは今でこそ干拓事業がおこなわれ肥沃な水田地帯となっているものの、もとの地形は霞ケ浦の小規模な一内湾である。その内湾はちょうど河口付近で砂洲によって塞がれ湖沼状を呈し景観もよく、沿岸に沿っては縄文時代から奈良・平安時代の集落跡が数多く発見されており、古墳の築造も盛んであった。

遺跡の立地をもう少し詳しくみると、この小野川河口の南西に開口する小河川で、複雑に開析された支谷は幅狭い支台を形成しているが、その中間にあたる谷津頭頂部の北側で、南方に向かって緩傾斜する縁辺部に立地する。北東および谷津頭を挟んで東側に広がる後背地は比較的平坦面の広い洪積台地であるが、北西側は幅狭い舌状台地である。標高は23.5～24.5m、南西側の谷津田との比高差は約11mを測る。なお、当調査区の西150mには一部青宿天神社殿によって変形されているものの、径25m、高さ3mの円墳１基が所在する。青宿古墳１号墳である(第１・３図)。

また奈良・平安時代の創建と伝えられている高田神社は北西500mの位置にある。

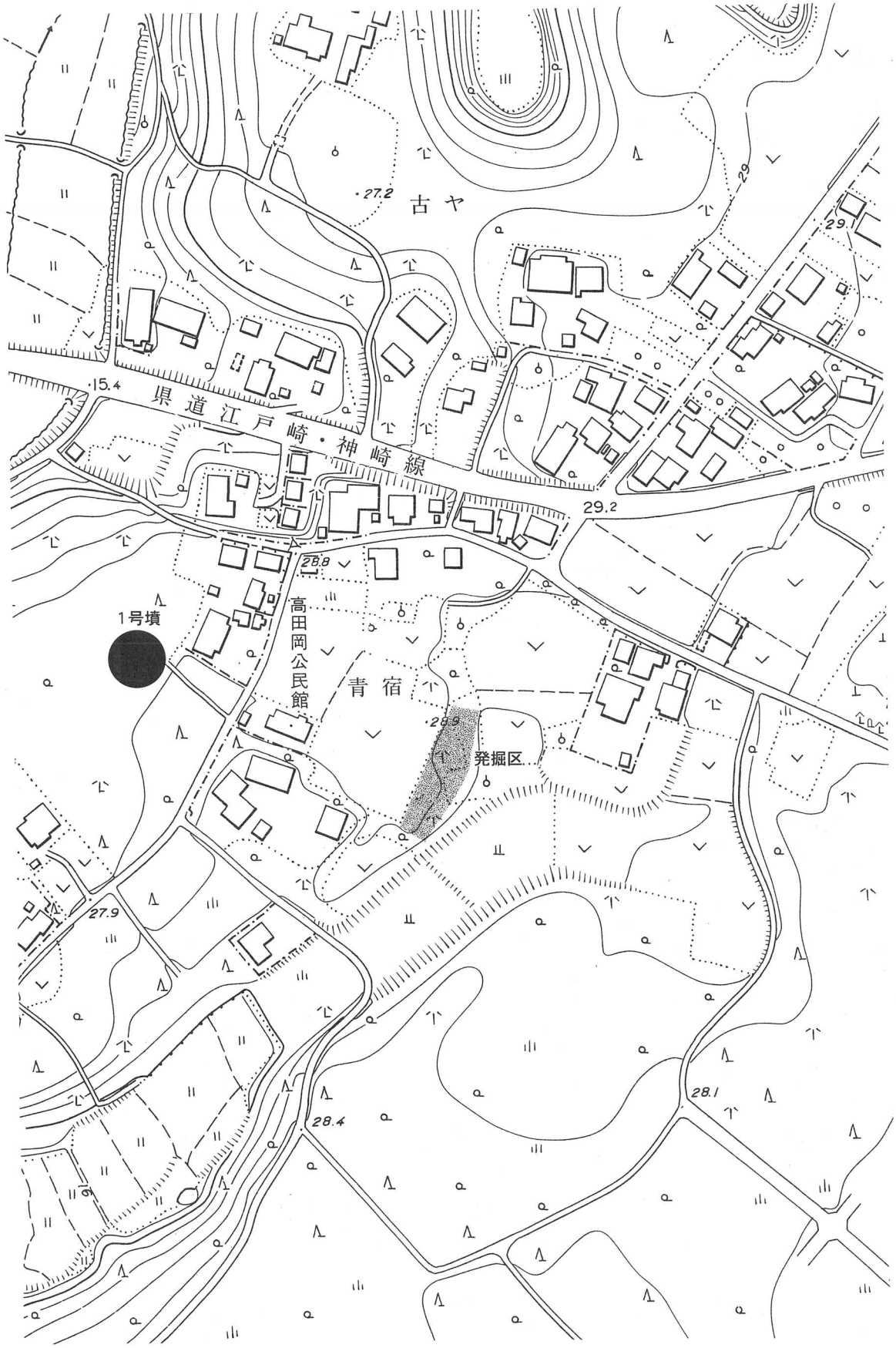
第４節　周辺の遺跡（第２図）

合併前の旧江戸崎町で周知されている遺跡は166ヶ所、さらに隣接する旧桜川村では112ヶ所である。昭和52年の茨城県遺跡地図では江戸崎37ヶ所、桜川42ヶ所といわれていたものが３倍以上確認されたことになる。この数字は調査が進めばさらに増えることは間違いないが、逆に開発によって多くの遺跡が湮滅していることもまた事実である。この平成の市町村大合併によって江戸崎町、桜川村、東町、新利根町が合併し稲敷市となり遺跡数は増えたとはいえ、総体的にみてまだ十分遺跡が掌握されているわけではない。また、現在工事中である圏央道はまもなく開通する見込みであり、今後より人口が増え、さらに大規模な開発が計画されるなど県内でも注目される地域である。それに伴い新たな遺跡が確認される可能性が高いといえよう。

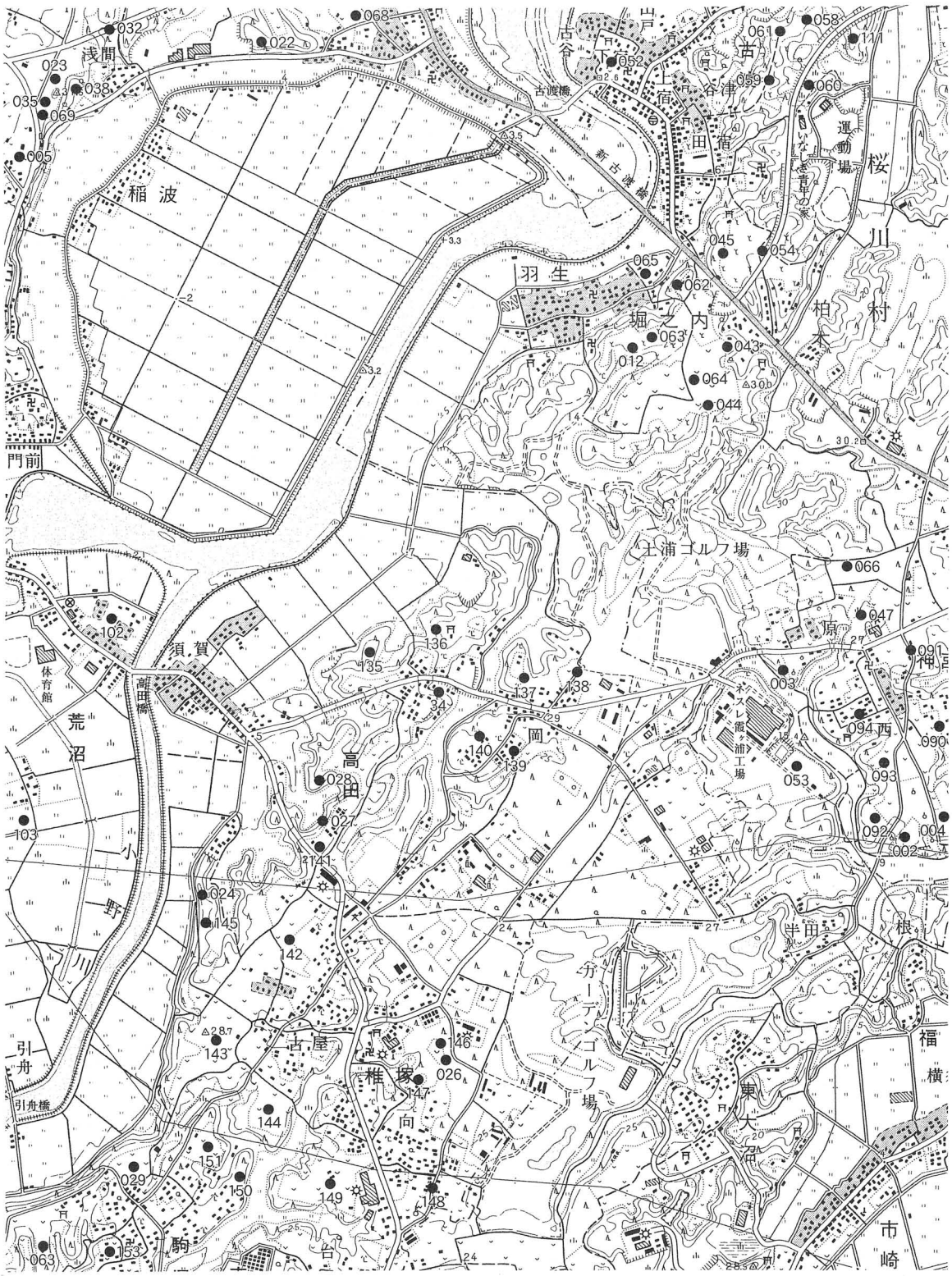
さて、青宿遺跡が立地する区域は、北に霞ケ浦、西に小野川、さらに南側には利根川に挟まれた稲敷台地東側は幅１～３kmほどの南北に細長く延びた洪積台地である。ここは幅狭く複雑に開析された舌状台地がいくつも形成され、台地上には縄文時代から近世に至るまでの多くの遺跡が確認されているが、とくに縄文時代と古墳時代の遺跡が集中しているのが特徴である。しかもこれらの遺跡のうち、発掘調査もしくは試掘調査が行われているものもあり、多くの成果を得ている。

まず旧石器時代ではゴルフ場建設にともない調査された秋平遺跡(056)でナイフ形石器が出土しているが、周辺遺跡を含め明瞭なユニットの検出はいまだない。近い将来確実に旧石器の遺跡の存在が明らかにされることは間違いない。これに対し次の縄文時代では霞ケ浦に面しているという好環境から貝塚を中心に著名な遺跡が数多く存在する。本遺跡の南西1.5kmに所在する椎塚貝塚(024)はとくに有名である。明治初期・日本考古学の幕開けとなった東京都の大森貝塚の調査から15年後、明治26年に発掘調査され、なかでもヤスが突き刺さったまま出土した鯛頭骨は縄文時代の漁労史において欠くことのできない一級資料である。そのほか国指定の土瓶をはじめ鮑形土器、土偶、土版、石棒などはいずれも考古学史上重要な位置付けがされている。そのほか周辺では蓮沼貝塚(027)、中根貝塚(028)、高田岡貝塚(034)が周知されており、さらに旧東町の福田貝塚も学史に残る貝塚のひとつである。当調査区でもわずかであるが縄文時代前期中葉、後期前半の遺構あるいは遺物が検出されているが、対岸の中佐倉貝塚(058)では前期中葉から後葉の住居跡13軒、土坑22基が明らかにされており、この内湾を巡る台地上は間違いなく縄文時代遺跡の宝庫の一端を示している。次の弥生時代は極端に少なくなるが、対岸における楯の台古墳群(022)の調査の際、墳丘下から弥生後期の住居跡が検出されている。江戸崎地区における弥生時代住居跡検出の嚆矢となったもので、さらに２・３次調査でも確認されており、弥生の一大集落跡であることが判明している。さらに秋平遺跡(056)で１軒、茨城県教育財団による大日山古墳群(051)の墳丘下で８軒、思川遺跡(053)では３軒が明らかにされている。

古墳時代になると古墳をはじめ、集落跡も数多く報告されている。江戸崎地区では古墳群が16支群59基、古墳が28基、桜川地区では古墳群12支群63基、古墳11基が、さらに東地区でも古墳群５支群84基、古墳２基が周知されて



第１図　発掘区および青宿古墳群１号墳位置図（1/2,500）



旧江戸崎町
139青宿遺跡　005吹上貝塚　022楯の台古墳群　023佐倉原古墳群　024椎塚貝塚　026隠里の塚古墳　027蓮沼貝塚　028中根貝塚　029駒塚貝塚
032二の宮貝塚　034高田岡貝塚　035台畑貝塚　036駒塚台上遺跡　038大日古墳　068権現台遺跡　069佐倉原南遺跡　102御城遺跡　103古橋塚
124宮台遺跡　135真福寺遺跡　136高田大神古墳　137東条高田城跡　138馬場添遺跡　140青宿古墳　141天ノ宮遺跡　142中畑遺跡　143宮前遺跡
144原平遺跡　145中峯大日塚　146椎塚台遺跡　147椎塚城跡　148椎塚荒久遺跡　149薬師後遺跡　150奥山遺跡　151代遺跡　153原屋敷遺跡
旧桜川村
002塔の前寺院跡　003町山穴かまど跡　004西原古墳群　012人形塚古墳　043内道古墳群　044稲荷久保古墳　045柏木古渡古墳群　047馬場尻穴かまど跡
052小谷城跡　053迎山塚　054柏木遺跡（柏木古墳群）　058住吉台遺跡　059飯倉内西遺跡　060飯倉内東遺跡　061峯入古墳　062堀之内リュガイ城跡
063人形塚遺跡　064中道遺跡　065内小屋遺跡　066木戸古墳群　090野口遺跡　091馬場遺跡　092細田遺跡　093井戸畑遺跡　094神宮寺台遺跡
111富士山遺跡

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1：25,000）

いる。因みにこの桜川支台西側の新利根町では古墳群３支群18基、古墳2基が確認されており、稲敷台地東端における古墳の総数は277基が明らかにされている(茨城県教育財団1999・2002)。なお、本調査区の西150mには青宿古墳１号墳(140)が所在する。詳細な測量図は作成されておらず約1/3が社の建立によって破壊されているものの、径25m、高さ3mの比較的良好な円墳である(第３図)。なお、現状では主体部や周溝について確認できていないが、今回の調査によって単独の築造古墳ではなく、群集墳を形成する青宿古墳群という一支群であることが判明したことになる。将来今調査区で確認された２基は「２号墳、３号墳」という命名になるであろう。

第３図　青宿古墳群１号墳近景

なお、北側の稲敷台地にあたる対岸では多くの古墳が調査されている。昭和46年調査され、多量の馬具が出土したことでも有名な水神峰古墳(067)は６世紀前半の箱式石棺を伴う古墳である。また土砂採取によって調査された楯の台古墳群(022)や姫宮古墳群(050)などがすでに報告されている。さらに集落跡では秋平遺跡(056)で38軒、池平遺跡(055)で47軒、中佐倉貝塚(058)で３軒、楯の台古墳群墳丘下で５軒、大日山古墳群(051)墳丘下では６軒、二の宮貝塚(032)から５軒、思川遺跡(053)でも14軒が検出されている。これらはいずれも全面調査ではないが、明らかに拠点的な大集落跡であることが想定される。次ぎの奈良・平安時代では遺跡は少なくなるとはいえ、秋平遺跡(056)では住居跡が38軒、思川遺跡(053)でも36軒検出されており、いずれも拠点的集落を形成している。その他池平遺跡(055)や中佐倉貝塚(058)、二ノ宮貝塚(032)でも確認されている。しかし、本遺跡の南西6.5kmには下君山廃寺(012)がある。布目瓦が多量に出土し、塔の心礎と想定される平石の存在が明らかにされている。しかも８世紀代の金銅仏の出土があったことから「信太郡」の郡衙の推定地として明治時代より指摘されている。これらを総合的にみるとこの地が霞ヶ浦の肥沃な土地を背景に、政治的にも中心的な機能をもたらしていたことは疑いない。

(小川和博)

Tab.１　青宿遺跡と周辺遺跡一覧
(旧江戸崎町)

番号	遺跡名	種　別	時代・時期	遺跡番号	備　考
1	青宿遺跡	包蔵地	縄文、古墳	１３９	H18工場地調査
2	吹上貝塚	貝塚	縄文、弥生	００５	
3	楯の台古墳群	集落、古墳群	弥生、古墳、奈良、平安	０２２	H11年発掘調査
4	佐倉原古墳群	包蔵地、古墳群	縄文、古墳、奈良、平安	０２３	
5	椎塚貝塚	貝塚	縄文	０２４	
6	隠里の塚古墳	古墳群	古墳	０２６	
7	蓮沼貝塚	貝塚	縄文	０２７	
8	中根貝塚	貝塚	縄文	０２８	
9	駒塚貝塚	包蔵地、貝塚	縄文、古墳、奈良、平安	０２９	
10	二の宮貝塚	集落、墓、貝塚	古墳、奈良、平安、中世、近世	０３２	S63年発掘調査

番号	遺跡名	種　別	時代・時期	遺跡番号	備　考
１１	高田岡貝塚	貝塚	縄文	０３４	S56年調査
１２	台畑貝塚	貝塚	縄文、古墳	０３５	人類学史876
１３	駒塚台上遺跡	集落跡	縄文、古墳、奈良	０３６	
１４	大日古墳	古墳	古墳	０３８	
１５	権現台遺跡	包蔵地	中世	０６８	
１６	佐倉原南遺跡	包蔵地、生産遺跡	古墳	０６９	
１７	御城遺跡	城館跡	中世	１０２	
１８	古橋塚	塚	近世	１０３	
１９	宮台遺跡	包蔵地	縄文、弥生、古墳、奈良、平安	１２４	
２０	真福寺遺跡	寺院跡、古墳	近世	１３５	
２１	高田大神古墳	古墳	古墳	１３６	
２２	東条高田城跡	城館跡	中世	１３７	
２３	馬場添遺跡	包蔵地	縄文、古墳	１３８	
２４	青宿古墳	古墳	古墳	１４０	
２５	天ノ宮遺跡	包蔵地	縄文	１４１	
２６	中畑遺跡	包蔵地	縄文、古墳、奈良、平安	１４２	
２７	宮前遺跡	包蔵地	縄文、古墳、奈良、平安	１４３	
２８	原平遺跡	包蔵地	縄文、古墳、奈良、平安、中世	１４４	
２９	中峯大日塚	包蔵地	縄文、古墳、奈良、平安	１４５	
３０	椎塚台遺跡	包蔵地	奈良、平安	１４６	
３１	椎塚城跡	城館跡	中世	１４７	
３２	椎塚荒久遺跡	包蔵地	古墳	１４８	
３３	薬師後遺跡	包蔵地	奈良、平安	１４９	H18年調査
３４	奥山遺跡	包蔵地	縄文、古墳	１５０	
３５	代遺跡	包蔵地	縄文、古墳	１５１	
３６	原屋敷遺跡	包蔵地	古墳、中世	１５３	

（旧桜川村）

番号	遺跡名	種　別	時代・時期	遺跡番号	備　考
1	塔の前寺院跡	廃寺跡	奈良、平安	００２	
2	町山穴かまど跡	窯跡	古墳、奈良、平安	００３	
3	西原古墳群	古墳群	古墳	００４	
4	人形塚古墳	古墳	古墳	０１２	
5	内道古墳群	古墳群	古墳	０４３	古墳５基
6	稲荷久保古墳	古墳	古墳	０４４	円墳
7	柏木古渡古墳群	古墳群	古墳	０４５	古墳５基
8	馬場尻穴かまど跡	窯跡	古墳、奈良、平安	０４７	
9	小谷城跡	城郭	近世	０５２	
１０	迎山塚	塚	近世	０５３	S61年発掘調査
１１	柏木遺跡 （柏木古墳群）	集落跡	縄文、古墳、奈良、平安	０５４	S63年発掘調査
１２	住吉台遺跡	包蔵地	縄文、古墳、奈良、平安	０５８	
１３	飯倉内西遺跡	包蔵地	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世	０５９	
１４	飯倉内東遺跡	包蔵地	古墳、奈良、平安	０６０	
１５	峯入古墳	古墳	古墳	０６１	円墳
１６	堀之内リュガイ城跡	城館跡	中世	０６２	
１７	人形塚遺跡	包蔵地	古墳	０６３	
１８	中道遺跡	包蔵地	古墳、奈良、平安	０６４	
１９	内小屋遺跡	包蔵地	中世	０６５	
２０	木戸古墳群	古墳群	古墳	０６６	
２１	野口遺跡	包蔵地	中世	０９０	
２２	馬場遺跡	包蔵地	奈良、平安、中世	０９１	
２３	細田遺跡	包蔵地	古墳、奈良、平安	０９２	
２４	井戸畑遺跡	包蔵地	奈良、平安	０９３	
２５	神宮寺台遺跡	包蔵地	古墳、奈良、平安	０９４	
２６	富士山遺跡	古墳	古墳	１１１	

第Ⅱ章　検出された遺構と遺物

第１節　概要（第３図）

青宿遺跡は、現稲敷市の東部、小野川右岸の標高24mの台地縁辺部上に所在する。ここは北東側に支谷が小さく入り込んで台地の縁辺となり、この谷を下ると小野川河口の内湾沖積地が展開している。今回の調査は確認調査の結果に基づき、開発対象区域の全面975.90㎡で、ここから古墳時代の円墳１基、方墳１基、土坑７基、溝２条が検出された。円墳および方墳はすでに墳丘部が削平され、本調査によってその存在が確認されたほどで、墳丘の高さなどの規模について不明な点が多く、また墳丘内主体部も検出できなかった。しかし１号墳とした円墳周溝内には２基の周溝内土坑が確認され、うち１基から刀子が出土した。また土坑７基のうち、５基は小規模ながら覆土の状況などから縄文時代に比定してよいものと考えている。時期は後期前半・堀之内１式期である。なお、円墳である１号墳周溝からわずかに土師器破片が出土しているが、２号墳である方墳からは遺物の出土はない。

第２節　古墳

第１項　１号墳（円墳）SM01（第５～７図）

１）形状

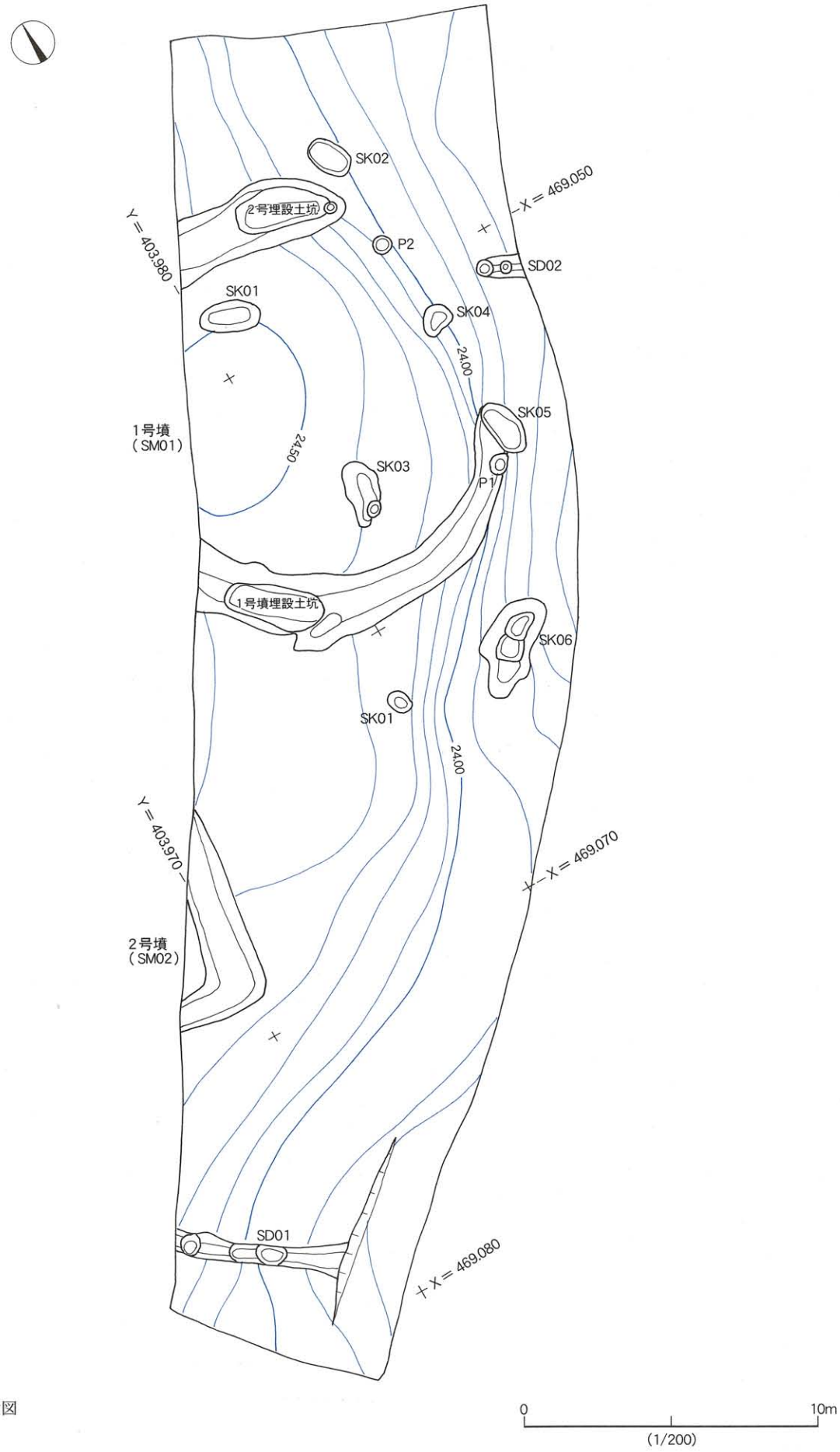
本墳は調査区北側の東方に傾斜する台地縁辺部に構築されており、欠損部のある周溝を検出する。調査は西側が未調査のため確認できていないことから、みかけ円形を呈していることで円墳としているが、帆立貝式あるいは前方後円墳とする説も現在のところ否定できない。現確認面は中央付近から西側の未調査区域はほぼ平坦部に広がっているものの、東面する墳墓の半分以上は傾斜部にかかっており、周溝の北西側は検出できなかった。また残存している遺構は未調査区域の墳丘断面をみても墳丘はもちろん旧表土も大きく削平されており、墳丘を囲繞する周溝のみの確認となった。なお西面は未調査区域に広がっており全体的な規模は不明であるが、周溝の内側は正円に近い形態と推定される。また外側では南側と北側に張り出し部状の突出部があり、全体的には幅は一定していない。検出された周溝の規模は南北軸外側14.82m、内側11.50m、計測可能な東西軸外側10.91m、内側10.02mである。もう少し詳しくみると南側幅2.68m、下面幅1.30m、深さ0.38m。東側幅0.95m、下面幅0.72m、深さ0.17m。北側幅1.82m、下面幅1.27m、深さ0.46mを測る。またここで最大幅は南側で2.62m、最小幅は東側で0.92mである。また最も深度の深いのは南側で0.47m、逆に最も低深度は東側で0.07mを測る。周溝は素掘りの堀で、内外斜面もゆるい傾斜をもちながら外傾して立ち上がり、断面形は開口部の大きく開いた弧状を呈している。底面には多少の凹凸が存在するが基本的には平坦面に掘っている。土層断面では７層に分層可能でレンズ状を呈した自然堆積層である。しかし、南側と北側の周溝底面には対峙するように長方形の土坑が掘削され、その一部が外側に突出している。いわゆる埋葬施設として考えられている周溝内土坑である。南側を１号周溝内埋葬施設、北側を２号周溝内埋葬施設とした。

２）第1周溝内埋葬施設（第６図）

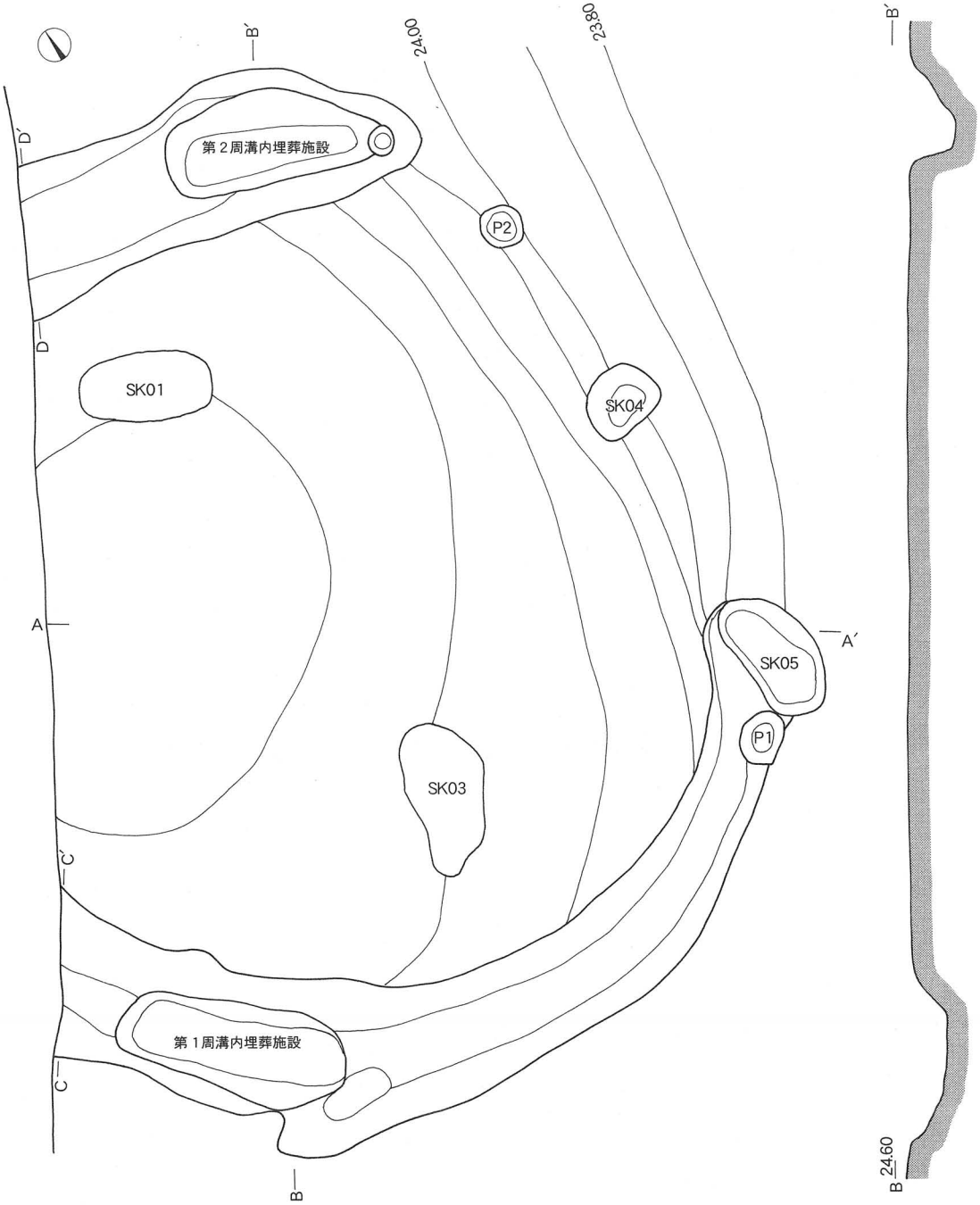
南側周溝内のほぼ中央に位置する。周溝底部を垂直に掘り込んだ土坑である。両小口がわずかに丸みをもつ隅丸長方形であるが、この丸みは崩落した結果と推定される。長さ3.41m,同下端3.20m。西小口幅1.12m、同下端0.89m。中央幅1.29m、同下端0.78m。東小口幅1.24m、同下端0.80m。周溝底から西小口深さ11.0cm、中央12.0cm、東小口10.0cmを測り、主軸方位はN－47°－Wを指す。遺物として中央北端で刀先を西に向けて刀子１振が底面から2.0cm浮いて出土した。遺物の出土状況や掘形からみて土坑内に木棺を直葬した埋葬施設と推定できる。なお、粘土や石材などの裏込めはみられない。施設内の土層は２層に分層できるものの、自然埋土である。

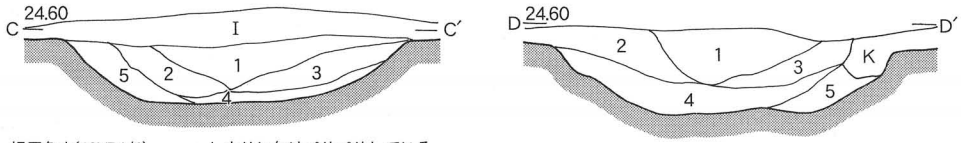
３）出土遺物（第７図１）

１は鉄製の刀子である。茎尻の一部を欠損し、全体的に銹化が著しく細部について不明な点が多い。関は刃の側にある片関の小刀であろう。茎と刃部には木質が付着している。現存する全長27.05cm、刃部長22.1cm、現存茎長4.95cm、刃幅(関寄りの部分)2.63cm、刃幅(切先基部付近)2.43cm、背厚(関寄りの部分)0.73cm、背厚(切先基部付近)0.67cm、茎幅(関付近)1.53cm、茎幅(中央部)1.37cm、茎厚(関付近)0.52cm、茎厚(中央部)0.41cm、現存重量168.5ｇである。


SK02
2号埋設土坑
P2
SD02
X＝469,050
Y＝403,980
SK01
SK04
24.00
SK05
1号墳
（SM01）
24.50
SK03
P1
1号墳埋設土坑
SK06
SK01
24.00
Y＝403,970
X＝469,070
2号墳
（SM02）
SD01
X＝469,080
0
10m
(1/200)

第４図　遺構配置図

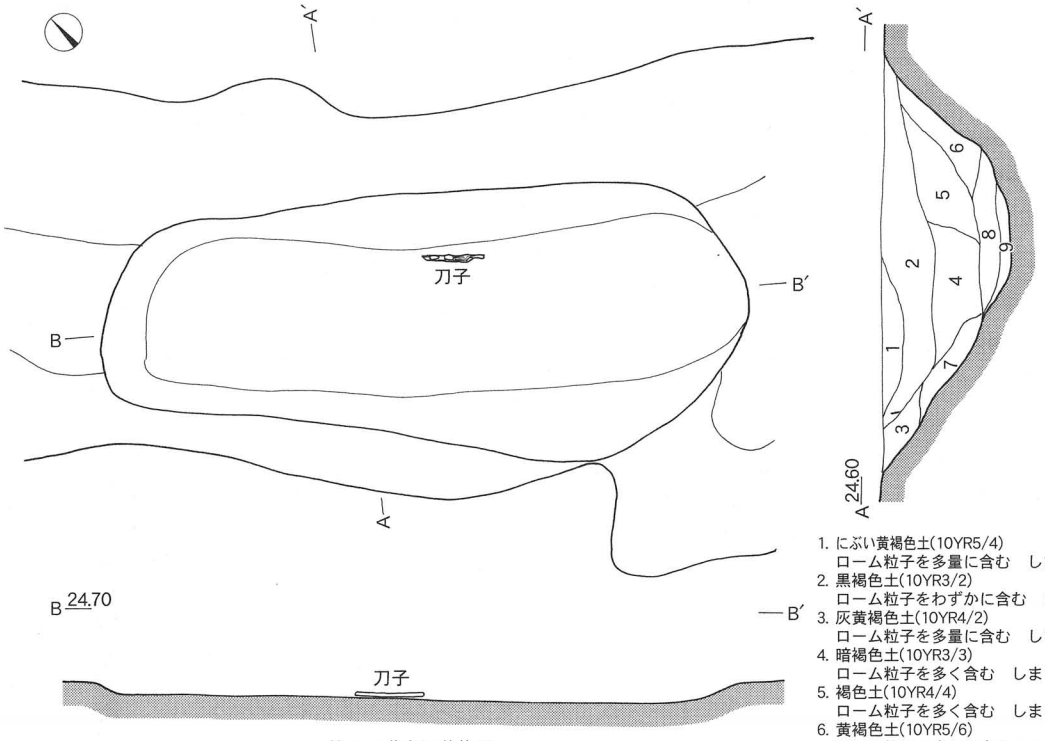




Ⅰ 表土層　褐灰色土(10YR4/1)　　しまりに欠けパサパサしている
1. 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
2. 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
3. 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多く含む　しまりがあり粘性にとむ
4. 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子を多く含む　しまりがあり粘性にとむ
5. 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロック・ローム粒子を多量に含む　しまりがある

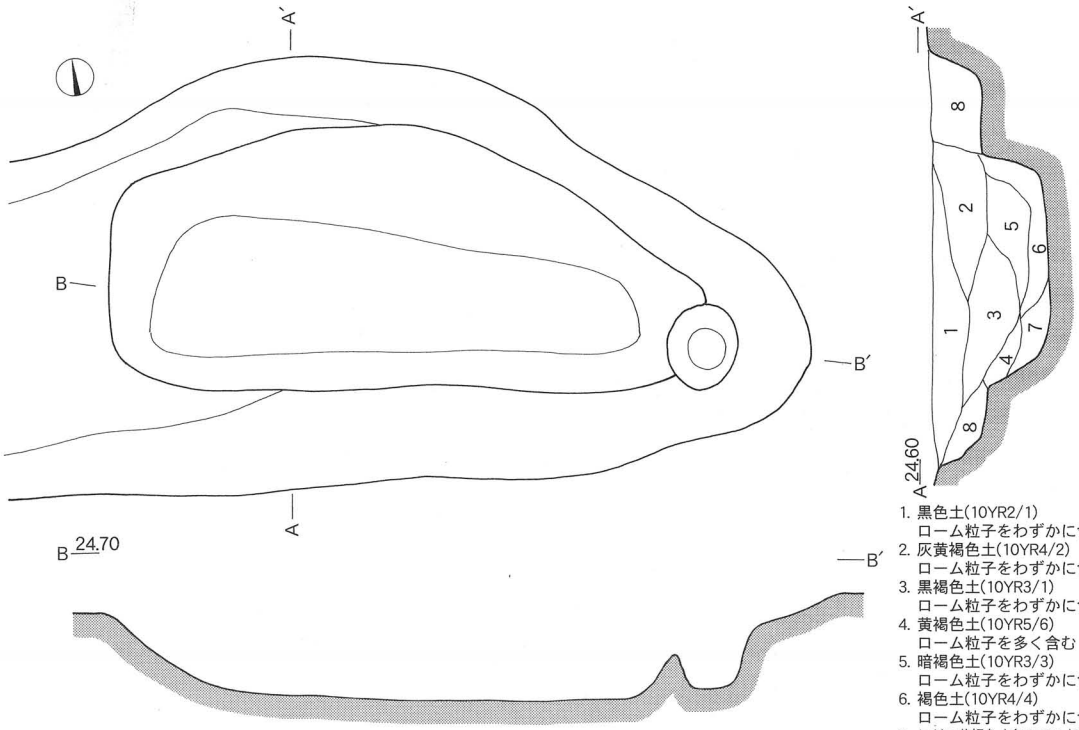
第５図　１号墳（ＳＭ01）周溝土層断面実測図

0　2m
(1/50)



第１周溝内埋葬施設

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4)
　ローム粒子を多量に含む　しまりにやや欠ける
2. 黒褐色土(10YR3/2)
　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)
　ローム粒子を多量に含む　しまりがあり粘性にとむ
4. 暗褐色土(10YR3/3)
　ローム粒子を多く含む　しまりがあり粘性にとむ
5. 褐色土(10YR4/4)
　ローム粒子を多く含む　しまりがあり粘性にとむ
6. 黄褐色土(10YR5/6)
　ローム粒子を多量に含む　しまりがあり粘性にとむ
7. 明黄褐色土(10YR6/8)
　ロームブロック・ローム粒子を多量に含む
　しまりがある
8. 黒褐色土(10YR2/3)
　ローム粒子を多く含む　しまりがあり堅緻である
9. 褐色土(10YR4/6)
　ローム粒子を多く含む　しまりがあり堅緻である

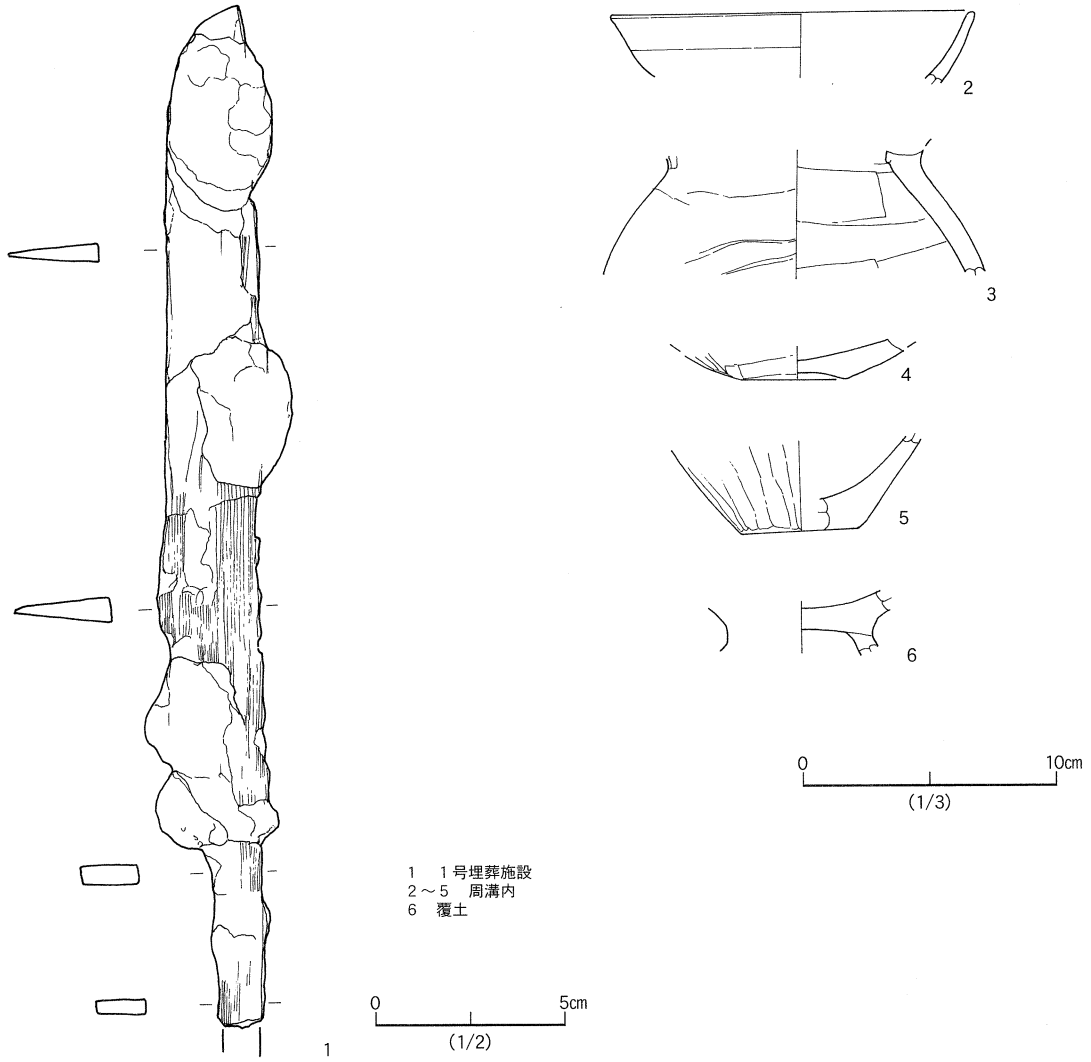


第２周溝内埋葬施設

1. 黒色土(10YR2/1)
　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)
　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
3. 黒褐色土(10YR3/1)
　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
4. 黄褐色土(10YR5/6)
　ローム粒子を多く含む　しまりがあり堅緻である
5. 暗褐色土(10YR3/3)
　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
6. 褐色土(10YR4/4)
　ローム粒子をわずかに含む　しまりがあり粘性にとむ
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
　ローム粒子を多く含む　しまりがあり堅緻である
8. 明黄褐色土(10YR6/8)
　ローム粒子を多く含む　しまりがあり堅緻である

第６図　１号墳（ＳＭ01）周溝内埋葬施設実測図

0　2m
(1/40)



第７図　１号墳（ＳＭ01）出土遺物

４）第２周溝内埋葬施設（第６図）

北側周溝内のほぼ中央に位置する。１号と同様に周溝底部を垂直に掘り込んだ土坑である。両小口がわずかに丸みをもつ隅丸長方形であるが、この丸みは崩落した結果と推定される。とくに東側小口は顕著である。長さ3.15m、同下端2.55m。西小口幅1.01m、同下端0.70m。中央幅1.39m、同下端0.65m。東小口幅0.72m、同下端0.42m。周溝底から西小口深さ20.0cm、中央45.0cm、東小口45.0cmを測り、主軸方位はＮ－68°－Ｗを指す。本施設からの遺物の出土はなかったが、大きさや掘形からみて１号墳と同様に木棺を直葬した埋葬施設と推定できる。やはり、粘土や石材などの裏込めはみられない。施設内の土層は４層に分層できる自然埋土である。

５）周溝内出土遺物（第7図２～６）

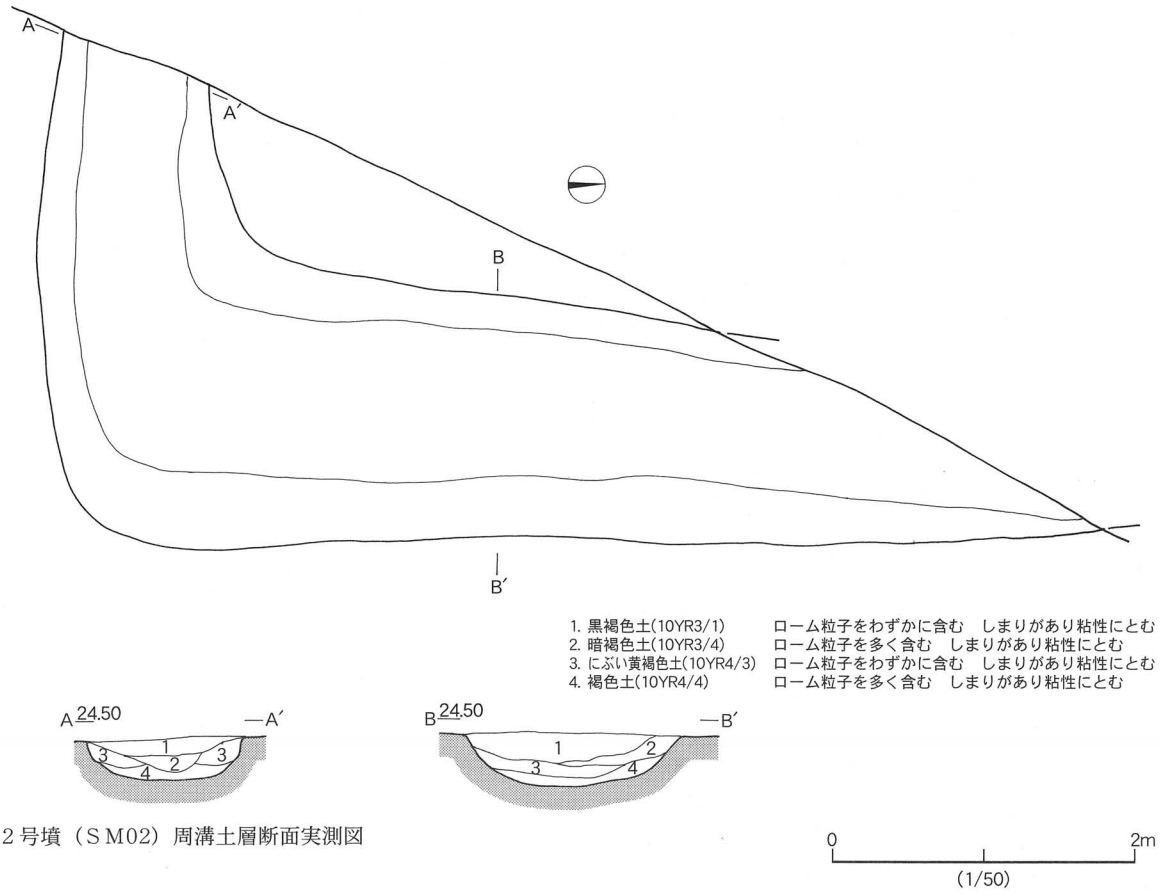
２は土師器坏の口縁部小破片で、残存率は1/10以下である。法量は推定口径12.5cm、現存高2.6cm。口縁部は外傾して開く。口縁部内外面ともヨコナデ。外面体部へラケズリ。胎土は石英・長石・黒色粒子を含む。焼成は良好で、色調は橙色5ＹＲ7/6を呈する。３は土師器甕の肩部破片で、残存率は１/８である。法量は現存高4.8cm。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。体部外面へラケズリ。内面へラナデ。胎土は石英・長石・黒色粒子を含む。

焼成は良好で、色調は橙色2.5ＹＲ7/8を呈する。４は土師器坩の底部小破片で、残存率は1/10である。法量は推定底径4.5cm、現存高1.6cm。底部はやや上げ底気味で体部は内湾気味に立ち上がる。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。底部ヘラナデ。胎土は石英・長石を含む。焼成は良好で、色調は黒褐色7.5ＹＲ3/2を呈する。５は土師器甕の底部破片で、残存率は底部の1/2である。法量は推定底径4.8cm、現存高3.5cm。平底の底部から体部は外傾して立ち上がる。体部外面ヘラケズリ後縦位のヘラナデ。内面ヘラナデ。底部ヘラナデ。胎土は石英・長石・チャート粒子を含む。焼成は良好で、色調はにぶい褐色7.5ＹＲ6/3を呈する。５は土師器高台付坏の底部破片で、残存率は底部の1/2である。法量は推定底径5.8cm、現存高2.4cm。回転ヘラ切りした後、ハの字状の高台を貼り付ける。胎土は石英・長石粒子を含む。焼成は良好で、色調は浅黄橙色7.5ＹＲ8/4を呈する。1～５は古墳時代後期７世紀代。６は９世紀に比定される。

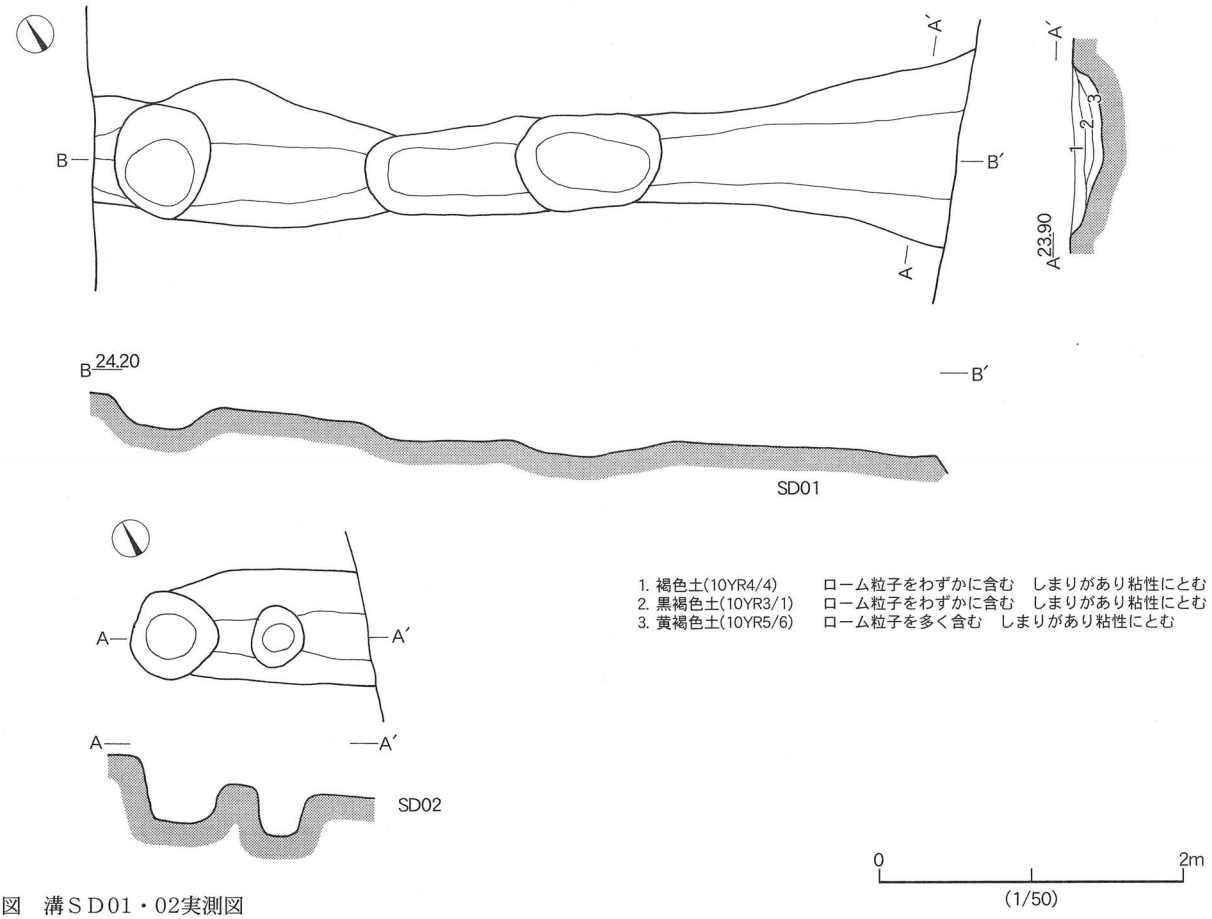
第２項　２号墳（方墳）SM02（第8図）

本墳は調査区南側の台地平端部に構築されており、南東コーナー部分のみ検出する。調査は西側の大半が未調査のため確認できていないことから、みかけ方形を呈していることで方墳とした。

なお１号墳と同様残存している遺構は未調査区域の墳丘断面をみても墳丘はもちろん旧表土も大きく削平されており、墳丘を囲繞する周溝のみの確認となった。検出できた南東コーナー部分だけであり全体的な規模は全く不明である。ここで検出された周溝の規模をみると周溝幅および深さとも一定しており、計測可能な南北軸外側6.75m、内側3.10m、上幅1.38m、下幅0.81m、深さ0.35m。同じく東西軸外側3.18m、内側1.03m、上幅1.03m、下幅0.65m、深さ0.185mで、南東コーナー上幅2.09m、下幅1.23m、深さ0.36mである。周溝は素掘りの堀で、内外斜面は外傾して立ち上がり、断面形は箱薬研堀状の逆台形を呈している。底面はほぼ平坦面で、比高差はほとんどみられない。なお、墳丘内あるいは周溝内には埋葬施設と思われる遺構はなく、周溝内からの遺物の出土はなかった。周溝内の土層断面では4層に分層可能でレンズ状を呈した自然堆積層である。



第８図　２号墳（ＳＭ02）周溝土層断面実測図



第９図　溝ＳＤ01・02実測図

第３節　溝

１）溝ＳＤ01（第９図）

調査区の南端で東西に走る溝で、東側は斜面部下方へ走り、端部は不明。また西側は未調査区域に延びている。調査区内における確認された長さは5.72m、その方向はＮ－58°－Ｗを示す。検出された規模として、上面の幅0.52～1.32m、底面幅0.24～0.58m、確認面からの深さ0.18m。なお溝底の標高からみてみると東側へ緩傾斜しており、地形のとおり東端が低く、西端が高い。その比高差は38.3cmで平坦はなく起伏が目立つ。横断面形はＵ字状を呈し、側面部も50°幅の急角度で外傾して立ち上がる。底面には２本のピットが穿ってある。西側端部のピットは径75.0×61.5cm、深さ14.0cmの楕円形。中央部は径98.0×64.5cm、深さ12.0cmの楕円形を呈する。底面は全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土はレンズ状の自然堆積層を呈しており、3層の分層が可能であるが流水の痕跡を呈さない。構築時期については、覆土の出土遺物がなく時期を確定する資料に欠けている。

２）溝ＳＤ02（第９図）

調査区の北東側、１号墳の東側で東西に走る溝で、東側は斜面部下方へ走り、端部は不明である。調査区内における確認された長さは40.65m、その方向はＮ－55°－Ｗを示す。検出された規模として、上面の幅0.62～1.25m、底面幅0.15～0.41m、確認面からの深さ0.26m。なお溝底の標高からみてみると東端が低く、西端が高い。その比高差は17cmでほぼ平坦である。横断面形はＵ字状を呈し、側面部も50°幅の急角度で外傾して立ち上がる。底面には２本の小ピットが穿ってある。西側端部のピットは径58.0×41.5cm、深さ12.0cmの円形。中央部は径58.0×41.5cm、深さ12.0cmの円形を呈する。底面はわずかに起伏があり、全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない覆土はレンズ状の自然堆積層を呈しており、流水の痕跡を呈さない。構築時期については、覆土の出土遺物がなく時期

を確定する資料に欠けている。

第４節　土坑（第10・11図）

第１項　遺構

１）土坑SK01（第11図）

１号墳墳丘下北側で検出された土坑である。東西に長軸をもつ楕円形を呈し、規模は長軸2.05m、短軸1.10mを測り、主軸方位はＮ－62°－Ｗを指す。壁面はわずかに外傾して立ち上がり、確認面からの深さは77.0cmで、底面はほぼ平坦であるが、全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土は黒褐色土の自然堆積である。

２）土坑ＳＫ02（第11図）

調査区の北側に位置し、１号墳の周溝外で検出された土坑である。南北に長軸をもつ楕円形を呈し、規模は長軸1.65m、短軸0.99mを測り、主軸方位はＮ－26°－Ｅを指す。壁面はわずかに外傾して立ち上がり、確認面からの深さは35.0cmで、底面はほぼ平坦であるが、全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土は黒褐色土の自然堆積である。

３）土坑ＳＫ03（第10図）

１号墳墳丘下南側で検出された土坑である。南北に長軸をもつ不整楕円形を呈し、規模は長軸2.30m、短軸1.10mを測り、主軸方位はＮ－23°－Ｅを指す。壁面は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは30.0cmで、底面南端に径58.0×41.5cm、深さ12.0cmの楕円形ピットが穿ってある。底面はわずかに起伏があり、全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土は黒褐色土の自然堆積である。

４）土坑ＳＫ04（第10図）

１号墳墳丘下東端で検出された土坑である。東西に長軸をもつ楕円形を呈し、規模は長軸1.12m、短軸0.67mを測り、主軸方位はＮ－71°－Ｅを指す。壁面は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは0.88cmで、底面はわずかに起伏があり、全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土は黒褐色土の自然堆積である。

５）土坑ＳＫ05（第10図）

１号墳東側周溝内で検出された土坑である。東西に長軸をもつ楕円形を呈し、規模は長軸2.05m、短軸1.00mを測り、主軸方位はＮ－07°－Ｅを指す。壁面はわずかに外傾して立ち上がり、確認面からの深さは74.0cmで、底面はほぼ平坦であるが、全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土は黒褐色土の自然堆積である。

４）土坑ＳＫ06（第10図）

１号墳の南側で検出された土坑である。南北に長軸をもつ不整楕円形を呈し、規模は長軸3.54m、短軸1.78mを測り、主軸方位はＮ－42°－Ｅを指す。壁面は外傾して立ち上がり、確認面からの最大深度は0.42cmで、底面は南側へ高く階段状を呈する。全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土は黒褐色土の自然堆積である。性格および時期不明の土坑である。

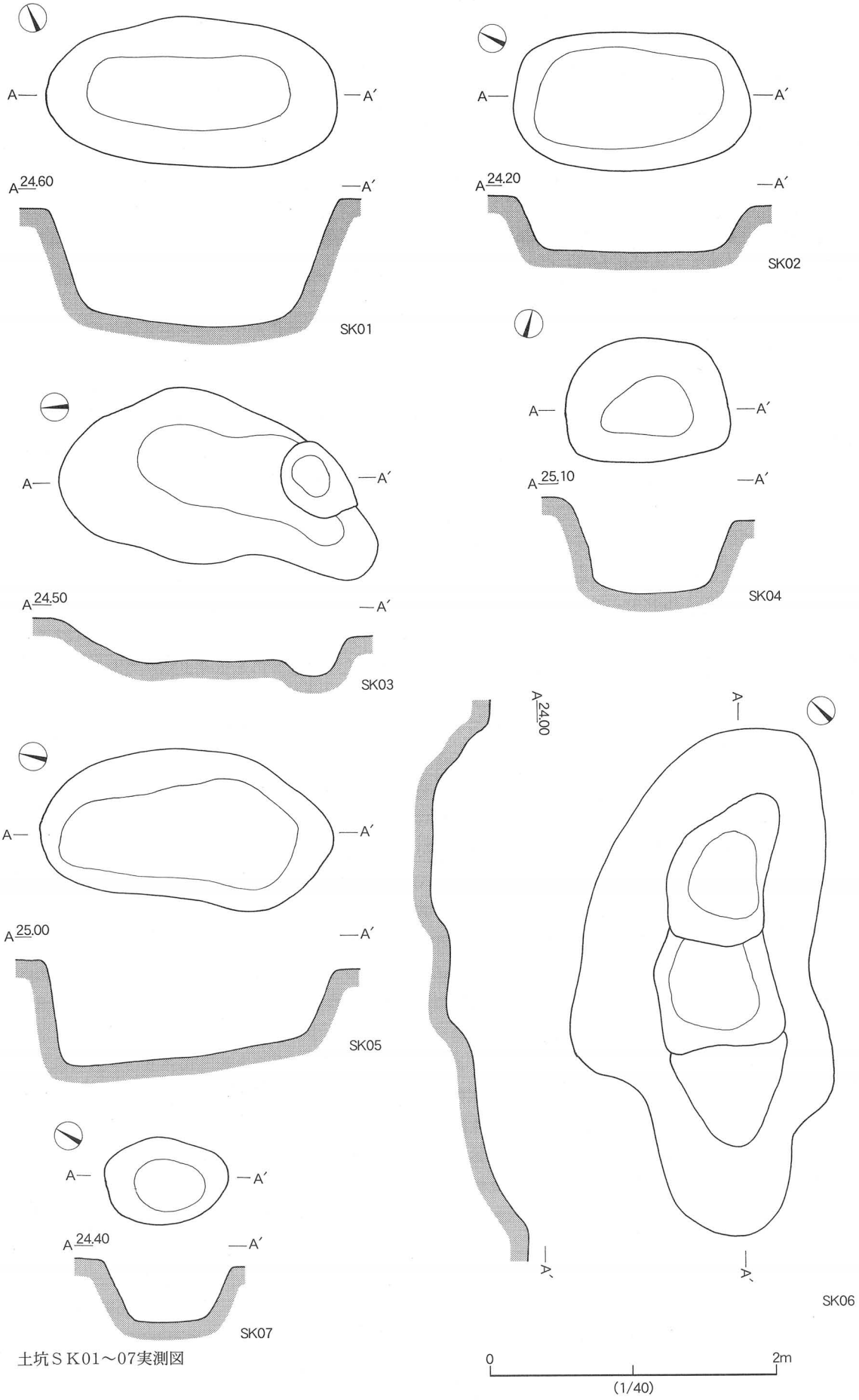
５）土坑ＳＫ07（第10図）

１号墳南側で検出された小土坑である。東西に長軸をもつ楕円形を呈し、規模は長軸0.90m、短軸0.61mを測り、主軸方位はＮ－30°－Ｗを指す。壁面は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは43.0cmで、底面はほぼ平坦であるが、全体的に軟弱で、踏み固められた痕跡は認められない。覆土は黒褐色土の自然堆積である。

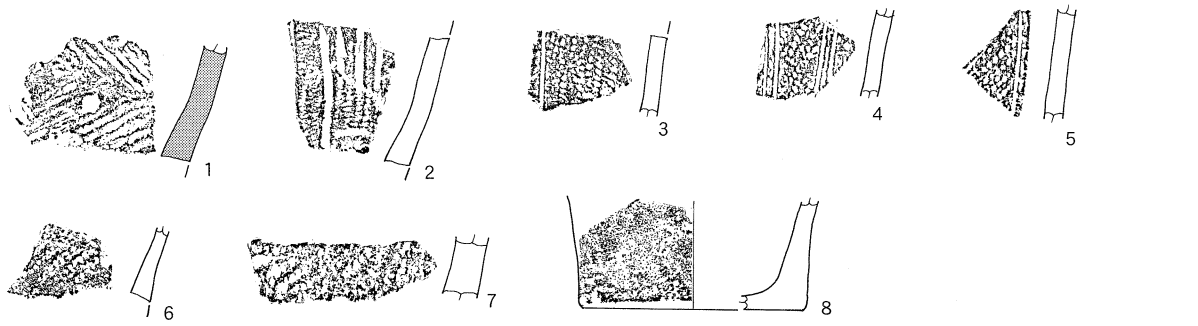
第２項　出土遺物（第11図1～８）

１号墳下および周溝から縄文土器が出土した。いずれも土坑に伴うものであろうが、出土地点が特定できない。前期中葉の土器１点と後期前半の土器７点の体部破片８点ある。１は前期中葉・黒浜式期に比定される。深鉢の胴部破片である。異方向に無節Ｌを交互施文させて羽状縄文とする。胎土に多量の繊維を含む。２～８は後期前半・堀之内１式土器である。２は縄文地文に縦位の沈線による懸垂文を垂下させる。文様上位は不明であるが、蕨手文となろう。３～６は単節ＲＬによる縄文地文に半截竹管様工具による平行沈線を垂下させる。７は肥厚があり、大型の深鉢となろう。単節ＬＲの横位回転による施文。８は底部破片。平底から体部が外傾して立ち上がる。いずれも胎土に石英・長石粒を含むが、４のみ海綿骨針粒を含有する。

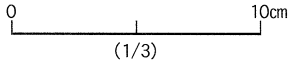
（小川　和博）



第10図　土坑ＳＫ01～07実測図



第11図　青宿遺跡出土縄文土器



第Ⅲ章　まとめ

（1）はじめに

今回調査対象となった青宿遺跡は、霞ケ浦に注ぐ１級河川小野川の河口にあたり、南側には利根川といった大河川に囲まれるように形成された稲敷台地の南東端、東西に細長く延びている稲敷台地東端に形成されている。ここは霞ケ浦の小規模な一内湾である。その内湾はちょうど河口付近で砂洲によって塞がれ湖沼状を呈し景観もよく、沿岸に沿って多くの古墳が築造されている。ここでは集落跡は確認できなかったが、円墳および方墳とみられる墳墓が検出された。また本調査区の西150mには青宿古墳が所在する。詳細な測量図は作成されておらず約1/3が社殿の建立によって変形されているものの、径25m、高さ3mの比較的良好な円墳である。現状では主体部や周溝について確認できていないが、今回の調査によって単独築造古墳ではなく、青宿古墳群という一支群であることが判明したことになる。将来青宿古墳は１号墳となり、今調査区で確認された２基は「２号墳、３号墳」という命名になるであろう。そこで検出された墳墓について概略をいま一度まとめとしておきたい。

（2）検出された古墳について

今回の調査で、円墳と方墳の２基の古墳が明らかにされた。しかし、検出された２基はいずれも墳丘部が削平され周溝のみで、その周溝も部分的であって、１号墳（ＳＭ01）とした円墳では西側の約1/3が未確認であり、前方後円墳もしくは帆立貝式古墳になる可能性もある。また２号墳（ＳＭ01）は方墳であるが、周溝内から遺物の出土はなく、覆土の状態からみても弥生時代から古墳時代前期にかけての方形周溝墓もしくは古代から中世における方形周溝状遺構とみることもでき、構築時期はもちろんその性格すら十分に把握されていないのが現状である。しかし、１号墳（ＳＭ01）は円墳仕様の形態を保持しており、帆立貝式になっても、前方後円墳になる可能性は少ないと考えている。また周溝内に埋葬施設と推定される土坑が２基検出できたことは墳丘が削平されていても古墳であることの傍証となった。なかでも南側の周溝内の埋葬施設には刀子１点が北壁のほぼ中央長軸に沿って出土しており明らかに副葬品であることが判る。なお、この刀子による年代決定は難しく、周溝内を含め周辺出土の土器類から判断するほかないが、すべて小破片であり、拠とするには資料が貧弱である。敢えて当てはめれば６世紀末から７世紀前半代とすることができる程度である。少なくとも１号墳(ＳＭ01)は終末古墳の一例として触れておきたい。なお、県内において周溝内埋葬施設にはさまざまな形態の存在が明らかにされている。この周溝内施設についてはすでに掘削されている周溝内をさらに掘削し埋葬施設として整えるわけであるが、本来埋葬施設は直接外気に触れ、人目に曝される性格のものではないであろうから、埋葬にあたってはいろいろ工夫を凝らしていたものと考えられる。しかし、大半は周溝を完掘しその底面あるいは壁面の掘削跡によって埋葬施設であろうと推定する場合が多い。確実に掌握できるのは遺物の出土が大きな根拠となるが、副葬品の少なさも周溝内埋葬施設の大きな特徴でもある。まず掘削状況から判断して、その規模・形態さらに底面や壁面によってその埋葬状況がある程度推定できる。おそらく直接掘削して土葬として埋葬したものもあるであろうが、なかでは長方形の掘形に底面が平坦で壁面がほぼ垂直に立ち上がる場合木棺葬と推定できるし、底面や壁面が平坦ではなくやや丸みを呈する場合は「木棺を使用せず、編み物等にくるまれて（白井1991)」埋葬されていたものと考えることができる。因みに１号墳で検出された２基の埋葬施設は掘形から見て明らかに前者の木棺施設であったであろう。こうした周溝内埋葬施設については「古墳時代初期の方形周溝墓における溝内埋葬との関連（黒沢1993)」が指摘されているが、方形周溝墓内の埋葬施設から高塚における埋葬施設への脈略は政治的背景をみても確かではない。しかし、周溝内埋葬施設の被葬者は墳丘被葬者よりも「階層的には下位の性格が強く現われて（黒沢1993)」いることは確実であろう。とくに終末古墳にみられる一埋葬施設内における複数被葬者のうち、第一被葬者と第二、第三被葬者とは明らかに階層的にも異なる、と同じように周溝内被葬者も墳丘内被葬者に比べ下位である可能性が高いことは確実であろう。

（3）稲敷台地東端の古墳

市町村合併する前の江戸崎地区では古墳群が16支群59基、古墳が28基、桜川地区では古墳群12支群63基、古墳

11基。東地区で古墳群５支群84基、古墳２基が周知されている。さらに西側の新利根地区では古墳群３支群18基、古墳2基が確認されており、稲敷台地東側における古墳の総数は277基が明らかにされている(茨城県教育財団1999)。

これらは小野川を挟んで対岸区域に比べ大半の古墳が発掘調査もしくは測量調査が行われていないため、その形態および埋葬施設など肝心な年代や性格が明らかでないものが多い。ここでは先に報告されている茨城県教育財団・古墳時代班（古墳グループ）による「茨城県古墳・横穴地名表（茨城県教育財団1999・2002）のうち市町村合併前の江戸崎町、桜川村、東町、新利根町をそのまま掲げまとめとしたい。

（小川　和博）

Tab. 2　稲敷台地東端の古墳一覧表
（旧江戸崎町）

番号	遺跡名	所在地	墳　形	遺跡番号	備　考
1	見晴塚古墳	江戸崎字原乙	円	002	
2	豆薬師遺跡	江戸崎字豆薬師乙	円	003	旧豆薬師古墳
3	亀ケ谷城古墳	羽賀字新畑	円	007	
4	荒地古墳	羽賀字荒地	円	008	旧荒地古墳群
5	木納場古墳群	羽賀字木納場	円３	009	
6	大塚古墳	羽賀字大塚	円カ	010	湮滅
7	権現塚古墳群	下君山字羽黒	円３	011	旧権現塚古墳
8	浅間山古墳群	沼田字東前	円カ２	013	湮滅
9	自穢前遺跡	沼田字自穢前	円カ	015	旧自穢前古墳
１０	大夫屋敷遺跡	沼田字大夫屋敷	円	016	旧大夫屋敷古墳
１１	天神山古墳	佐倉字山中平	円	019	
１２	殿屋敷遺跡	佐倉字殿屋敷	前方後円墳	021	旧殿屋敷古墳
１３	楯の台古墳群	佐倉字楯の台	前方後円３、円４、方１、帆立貝１	022	Ｓ61、H10、11発掘調査
１４	佐倉原古墳群	佐倉字佐倉原	円４	023	１基湮滅
１５	大塚山古墳	駒塚字大塚	前方後円、円３	025	
１６	隠里の塚古墳	椎塚字台	円	026	
１７	中峰遺跡	村田字中峰甲	円２	039	旧中峰古墳
１８	大日古墳	羽賀字大日		038	
１９	根古屋古墳	羽賀字根古屋		039	城の構造物
２０	中城古墳	羽賀字中城		040	
２１	大日峰古墳	松山字大日峰		041	
２２	山王古墳	下君山字山王		042	
２３	大塚古墳	上君山字大塚	方カ	043	
２４	沼口古墳群	上君山字沼口	前方後円１、円１	044	旧沼口古墳
２５	栗山遺跡	小羽賀字栗山	不明２	045	旧栗山古墳群
２６	土戸古墳	時崎字土戸	円	046	Ｈ３調査湮滅
２７	東前古墳群	時崎字東前	前方後円カ１、円１、	047	旧東前古墳
２８	辺田台古墳	蒲ヶ山字辺田台		048	
２９	長塚古墳	佐倉字長塚		049	
３０	姫宮古墳群	佐倉字迎坪	円２	050	Ｈ11調査
３１	大日山古墳群	古渡字大日山	塚３	051	Ｓ63調査
３２	桑山古墳群	桑山字上の台	円４	052	旧桑山古墳
３３	日向古墳	鳩崎字日向	円	064	
３４	水神峰古墳	佐倉字水神峰	不明	067	Ｓ48調査湮滅
３５	外浦古墳	江戸崎字外浦	前方後円カ	070	旧佐倉原古墳群７号墳
３６	塚本遺跡	沼田字塚本	円２	096	
３７	亀台古墳群	沼田字亀台	不明	099	
３８	山後古墳	村田字山後	円１、円カ１	112	
３９	荒地平古墳	羽賀字荒地平	円	115	旧荒地古墳群２号墳
４０	高田大神古墳	高田字高田大神	不明	136	石棺
４１	青宿古墳	高田字青宿	円１	140	
４２	台坪古墳群	桑山字台坪	円１、前方後円１	159	
４３	清水古墳群	桑山字白幡谷	円２	160	
４４	山崎古墳群	蒲ヶ山字山崎	塚４	161	H13調査湮滅

（旧桜川村）

番号	遺跡名	所在地	墳　　形	遺跡番号	備　考
1	西原古墳群	神宮寺字石塚	円５	004	
2	酒井古墳	四箇字酒井	円	005	旧中台古墳
3	人形塚古墳	羽生字人形塚	前方後円墳	012	
4	塚原古墳	古渡字塚原	不明	014	湮滅　石枕出土
5	平山古墳群	浮島字平山	円６	030	
6	勝木古墳群	浮島字勝木	円10	031	
	１号墳		円		
	２号墳		円		
	３号墳		円		
	４号墳		円		
7	竹の下古墳群	浮島字竹山	円６	032	湮滅
8	寄縄原古墳群	浮島字寄縄原	円５	033	湮滅
9	原古墳群	浮島字追越	前方後円１、円８	034	Ｓ56発掘調査
	１号墳		前方後円		
	２号墳		円		
１０	内道古墳群	柏木字内道	円４	043	
１１	稲荷久保古墳	柏木字稲荷久保	円	044	
１２	柏木古渡古墳群	柏木古渡山根	円５	045	
１３	前山古墳	神宮寺字前山	円	046	
１４	甘田古墳	甘田字宅地添	円	048	
１５	四箇古墳群	四箇字根畑	円３	049	
１６	三次古墳	三次	円	051	
１７	迎山古墳	神宮寺字原	塚	053	S61発掘調査、迎山塚
１８	東台古墳	甘田字東台	円	056	Ｈ１発掘調査
１９	峯入古墳	古渡字峯入	円	061	
２０	木戸古墳群	神宮寺字木戸	不明	066	
２１	竜貝古墳	阿波字竜貝	前方後円墳	069	
２２	達中古墳	下馬渡字達中	円	072	
２３	下馬渡原古墳	下馬渡字原	円	073	
２４	浮島原古墳	浮島字原	不明	075	湮滅
２５	峯ノ根古墳群	阿波字峯ノ根	不明	105	湮滅

（旧新利根町）

番号	遺跡名	所在地	墳　　形	遺跡番号	備　考
1	下太田古墳群	下太田	円６		
2	鏡塚古墳	上根本	円	001	
3	丑内原古墳群	角崎字丑内原	円９	022	
4	狸穴角崎古墳群	狸穴あらし	円１、前方後円５	004	
	１号墳		前方後円墳		
	２号墳		前方後円墳		
	３号墳		前方後円墳		
	４号墳		前方後円墳		
	５号墳		前方後円墳		
5	諏訪原古墳群	寺内諏訪原	円４	006	
6	愛宕山古墳	小野	円	007	湮滅
7	朝日向台古墳群	下根本字朝日向台	前方後円１、円２	007	
8	横町古墳群	上根本字横町	不明	016	
9	立山台古墳	中山字立山台	前方後円	025	

（旧東町）

番号	遺跡名	所在地	墳　　形	遺跡番号	備　考
1	長作台古墳群	伊佐部	円４	001	
2	大日山古墳群	阿波崎	円12	002	旧伊佐部古墳
3	東大沼古墳群	東大沼塚原	前方後円４、円30	004	Ｈ８・９調査
	１号墳		前方後円墳		
	２号墳		前方後円墳		
	４号墳		前方後円墳		

番号	遺跡名	所在地	墳　　形	遺跡番号	備　考
4	清水古墳群	清水新畑	円６	005	
5	幸田古墳	幸田	前方後円	006	
6	福田古墳群	福田新林	前方後円６、円22	007	
	１号墳		前方後円墳		三峯塚古墳
	２号墳		前方後円墳		
	３号墳		前方後円墳		
	４号墳		前方後円墳		
	５号墳		前方後円墳		
	６号墳		前方後円墳		
7	原山古墳	阿波崎		011	
8	思河古墳	阿波崎字思河	円	003	
9	半田古墳群	市崎字原	円５	028	

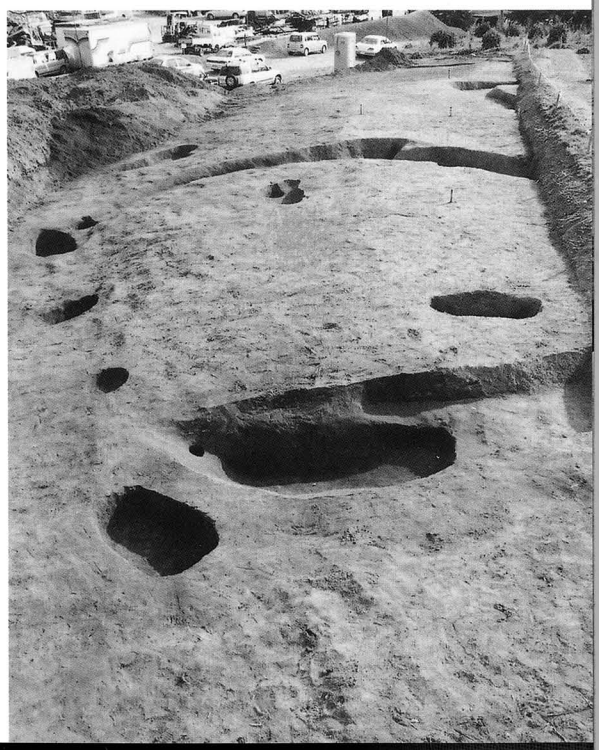
参考文献

大野雲外1903「浮島の古墳」東京人類学会雑誌１８
茂木雅博他1959「常陸浮島和田古墳群第二次調査」日本考古学協会昭和44年大会発表要旨
早稲田大学考古学研究室1973「福田古墳群第9号墳・長堀古墳群2号墳・柏崎古墳群富士見塚古墳の測量調査」茨城考古学５号
茨城県史編さん原始古代史部会1974「茨城県史　考古資料編古墳時代」茨城県
茂木雅博1974「浮島原１号墳調査報告」日本考古学協会年報25
茂木雅博1975「浮島原２号墳調査報告」日本考古学協会年報26
茂木雅博1976「浮島古墳群」浮島研究会
茂木雅博他1976「迎山古墳調査報告書」迎山古墳発掘調査会
茂木雅博1981「浮島古墳群第一次調査（勝木１号墳）」日本考古学協会年報21・22・23
茂木雅博1981「浮島古墳群第二次調査（勝木2・3号墳）」日本考古学協会年報21・22・23
茂木雅博1981「浮島古墳群第三次調査（勝木４号墳）」日本考古学協会年報21・22・23
茂木雅博1981「浮島原２号墳調査報告」日本考古学協会年報21・22・23
藤本強1981「福田古墳群(略測)」日本考古学協会年報21・22・23
新利根村史編纂委員会1981「新利根村史」新利根村
江戸崎町教育委員会1986「楯の台古墳群発掘調査報告書」江戸崎町
茂木雅博1989「勝木古墳群第４号墳発掘調査報告書」勝木古墳群発掘調査会
桜川村教育委員会1989「東台古墳発掘調査報告書」
鈴木美治他1991「二の宮貝塚　大日山古墳群　思川遺跡　一般県道新川江戸崎線改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第63集　茨城県教育財団
白井久美子他1991「千原台ニュータウンⅣ中永谷遺跡」千葉県文化財センター調査報告書第189集
黒沢彰哉1993「常総地域における群集墳の一考察」婆良岐考古第15号婆良岐考古同人会
松浦敏1994「柏木古墳群　一般県道新川江戸崎線改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第74集　茨城県教育財団
江戸崎町史編纂委員会1994「江戸崎町史」江戸崎町
間宮正光他1999「楯の台古墳群第２・３次発掘調査報告書」江戸崎町教育委員会
古墳時代研究班（古墳グループ）1999「茨城県古墳・横穴墓地名表及び文献一覧－県南地域(2)－」研究ノート８号　茨城県教育財団
間宮正光2000「姫宮古墳群１・２号墳　水神峯古墳」江戸崎町教育委員会
古墳時代研究班（古墳グループ）2002「茨城県古墳・横穴墓地名表及び文献一補遺2－」研究ノート11号　茨城県教育財団

写 真 図 版

遺跡遠景

調査区近景



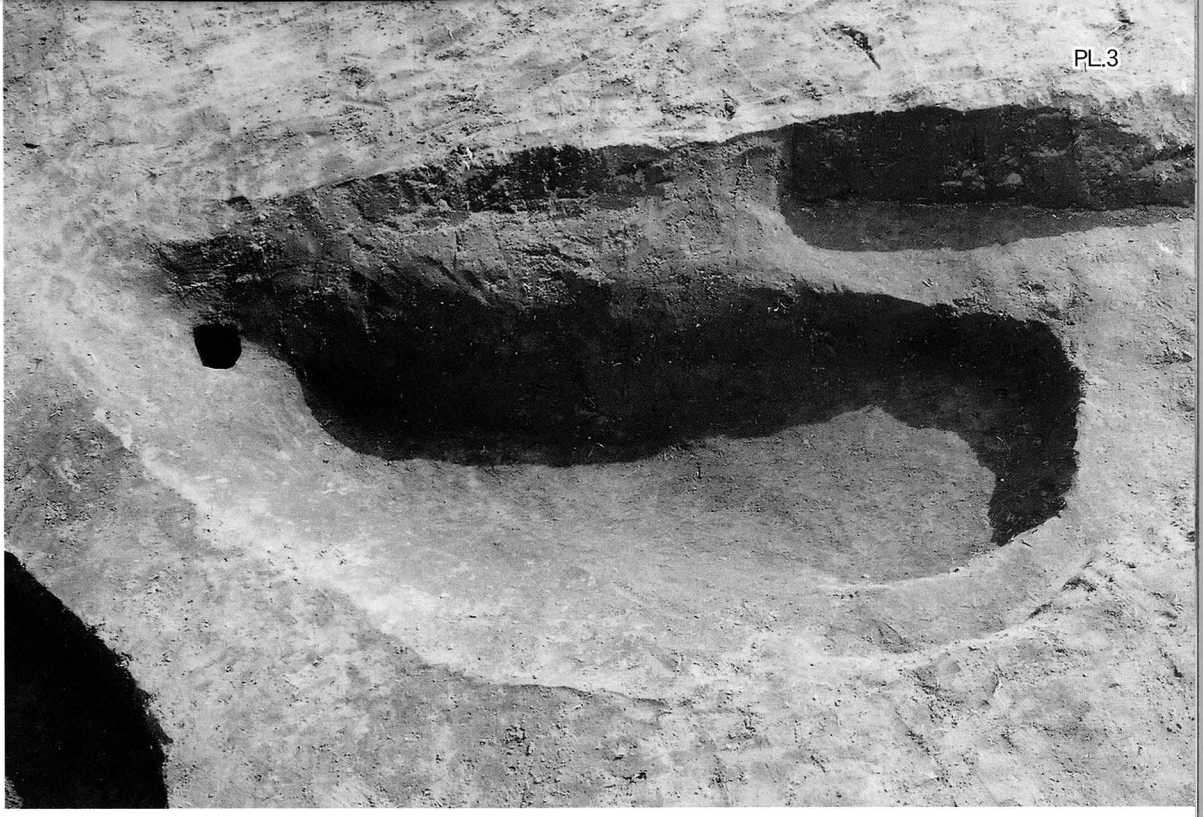
調査区全景

1号墳全景（ＳＭ01）

第１周溝内埋葬施設

第１周溝内埋葬施設断面

第１周溝内埋葬施設出土刀子

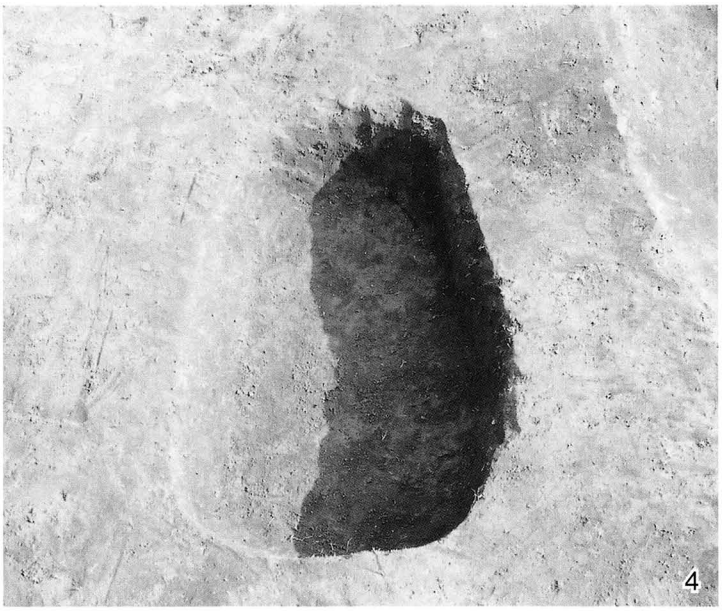


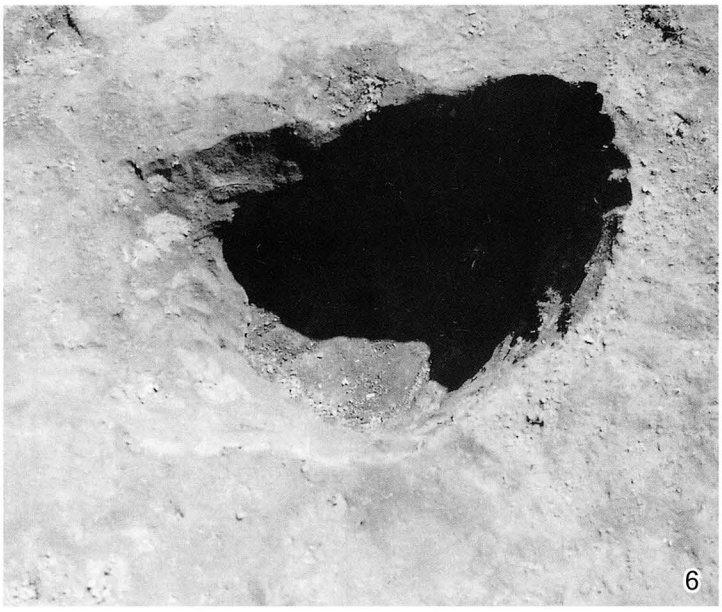
第２周溝内埋葬施設

第２周溝内埋葬施設断面

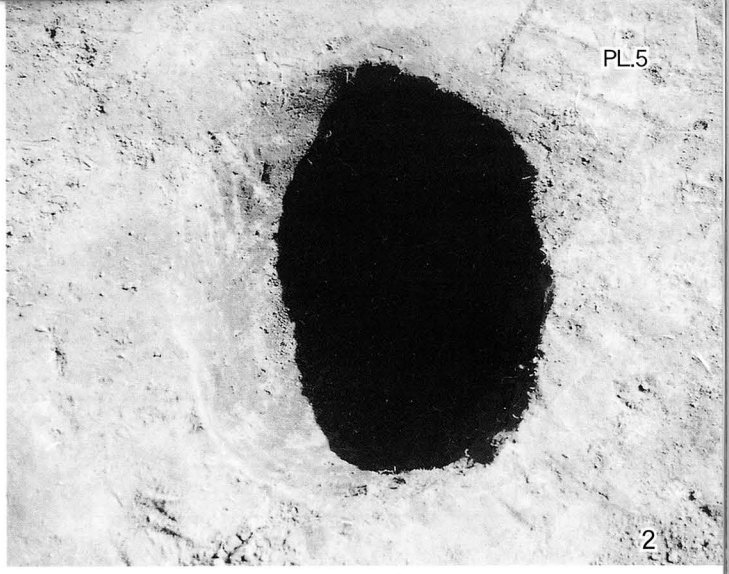
２号墳全景
（ＳＭ02）

1　溝ＳＤ01　　2　溝ＳＤ02

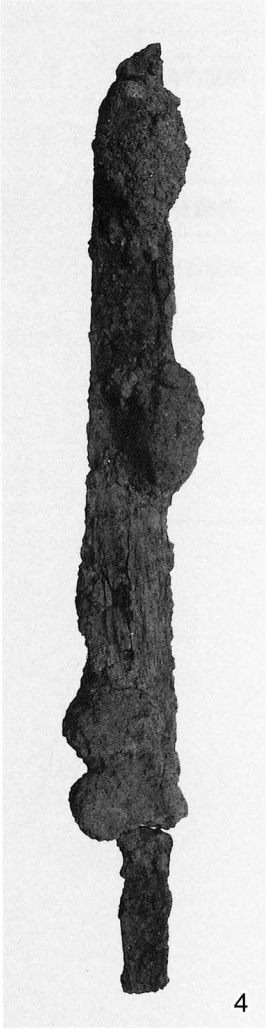


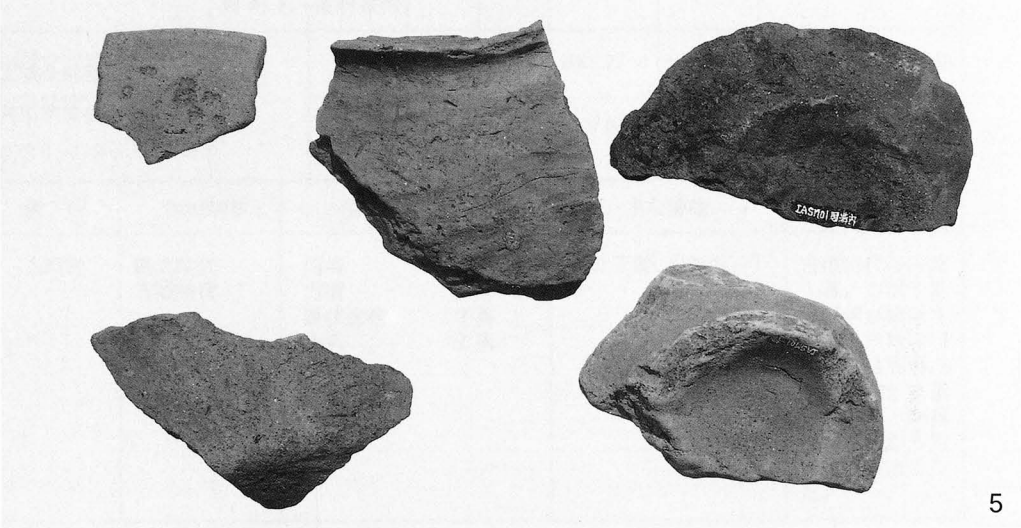


3　土坑ＳＫ01　　4　土坑ＳＫ02　　5　土坑ＳＫ03　　6　土坑ＳＫ04



1　土坑ＳＫ05
2　土坑ＳＫ06
3　土坑ＳＫ07
4　１号墳第１埋設施設出土刀子
5　１号墳周溝内出土土師器
6　調査区内出土縄文土器





報告書抄録

ふりがな	あおやどいせき　はっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	青宿遺跡　発掘調査報告書
副 書 名	
巻　　次	稲敷市埋蔵文化財調査報告書第３集
編著者名	小川和博
編集機関	有限会社 日考研茨城
所 在 地	〒300－0508　茨城県稲敷市佐倉3321－1　　TEL.029－892－1112
発行機関	稲敷市教育委員会
所 在 地	〒302－0198　茨城県稲敷市八千石18－1　　TEL.0299－79－3211
発行年月日	2008年３月30日

ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あおやどいせき 青宿遺跡	いばらきけんいなしきし 茨城県稲敷市 たかだあざあおやど 高田字青宿 673-1、673-2		139	35度 56分 51秒	140度 0分 8秒	2007.03.14 ～ 2007.04.06	975.9㎡	自動車解体作業場建設に伴う記録保存調査

遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主な遺物	特記事項
青宿遺跡	古墳群	縄文時代 古墳時代	円墳　１基 方墳　１基 溝状遺構　２条 土坑　７基	縄文土器、土師器・刀子	古墳時代の円墳１基、方墳１基の周溝が確認された。円墳の周溝内には周溝内埋葬施設が２基検出され、南側埋葬施設から刀子１点が出土した。

青宿遺跡発掘調査報告書

平成20年（2008）３月30日　発行

編　集　有限会社　日考研茨城
茨城県稲敷市佐倉3321－1　TEL　029-892-1112

発　行　稲敷市教育委員会
茨城県稲敷市八千石18－1　TEL　0299-79-3211

印　刷　有限会社　田　辺　印　刷
茨城県稲敷市佐倉3321－5